昭和七年一月二日　臺灣日日新報號外　（昭和三年三月郵便物認可）

臺灣日日新報號外

昭和七年一月二日
發行所　臺北市榮町四丁目　臺灣日日新報社
發行兼編輯人　河村徹　印刷人　前野右〔〕

來征第一回戰に明大—鐵團を破る

5對4の大接戰を演じて

圓山原頭の大偉觀

新春劈頭の快戰明大對鐵團野球第一回戰の開始を待つてゐる〔illegible〕圓山原頭は塵を拂つて〔illegible〕フオームの選手は岡田監督を先頭に角田、松木、鬼塚、井野川、赤木、松井、濱野等の强豪を始めとして布谷、濱野、中尾、河野等續々と球場へ入場する、待設けたスタンドからは急霰の如き歡迎の拍手が測ぜずし〔illegible〕明治との第一戰に堂々對峙する鐵團選手が渡邊主將を先頭に入場同じく練習が始つた〔illegible〕三壘審と共にダイアモンドに現はれ、定位置に就いた、河村本社社長の始球式に純白のボールは鐵團鈴木捕手のミットに收つた、鉢のあるパス本島球界の審判にデビューする天知球審の「プレーボール」は宣せられ先攻を承つた明大トツプ打者一壘の布谷選手はバツターボックスに入つた時に午後一時四十五分、かくて試合は白熱的に挑戰を續け結局五對四にて明大軍の勝に歸した

試合經過

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
鐵團	0	1	1	0	0	0	0	0	2	4
明治（先）	0	0	0	0	0	1	2	0	2	5

第一回（明大）布谷四球に出で濱野一飛、河野一飛で二死後布谷二盜に刺さる（鐵）永田ストレートの四球に出でしも三山の遊飛に封殺され本多四球後渡邊二飛に走者三壘を占めしも田子三飛に終りて兩者零

第二回（明大）松井中飛、二木三ボールの後左中間安打に出でしも泊畑捕邪飛、濱野遊飛（鐵）鈴木（英）三飛、後尾投飛で二死後鈴木（不）遊飛失に出で二盜し内山一壘強襲安打に鈴木（不）二壘より一擧生還、内山二盜に刺さる（明治零、鐵一）

（評）鈴木（不）の遊飛は中飛とも思はれたが遊擊濱野バックしてよくとらへんとせしもぽろりとおとして一壘に生き二盜後内山一壘足下を拔いて鈴木（不）二壘より一擧生還、假令大陽にさへぎられたとは云へ濱野として珍らしい失策である

第三回（明大）八十川四球に出で中尾の遊飛に封殺、布谷の右中間安打に殺きしも濱野の三飛に又もや封殺、河野四球に滿壘となりしも松井の遊飛に終る（鐵）永田ストレートの四球に出で三山の犧打に送られ本多の三遊間安打に鐵走者を一、三壘におき渡邊の右飛は犧打となつて永田三壘より生還田子左直球に終りしも鐵更に一點を加ふ

（評）明治此の回の二番打者八十川四球に出で續いて滿壘の好機を得しも强打者四番の松井遊飛は惜しい所であつた、代つた鐵團は一番打者永田同じく四球に出で正攻法に出でて三山犧打して永田を送り本多は遊擊濱野が二壘牽制に出てゐる留守を突つて安打となしたは鐵團の好運此の上もなく渡邊の右犧飛で鐵

第四回（明大）二木四球に出でしも泊畑三振濱野左中間安打に出でたが八十川投併（鐵）鈴木（英）三振、後尾右飛、鈴木（不）捕邪飛で三者凡退

第五回（明大）中尾に變つたピッチヒッター樋口二三後四球に出で布谷の犧打に樋口二進、河野三ボールの時樋口捕手二壘牽球を失して三進、河野四球で續きしも松井左飛（鐵）（明大中尾に代つて樋口右翼へ入る）内山二飛、永田捕前ゴロ、三山遊飛

第六回（明大）二木二—三後の四球に出づ泊畑に代つた松木三振、續いて濱野三振の時二木二盜、八十川一—二間を拔いて二木二盜より一擧生還、右翼からの本壘送球を見て八十川二進、樋口四球に續きしも布谷三飛（鐵）（明大松木、泊畑に代つて一壘を守る）本多遊飛内野安打に出で渡邊の捕邪飛後田子打者の時「ストライク」後のパスボールで二進せしも田子中飛、鈴木遊飛（明大一、鐵零）

（評）木四球で續く松木、濱野三振に無爲かと見えしも流石は明治、八十川よく直球を狙つて右前に安打し二木を入れる

第七回（明大）河野中前安打に出で河野の犧打に濱野二壘生還一二木三振、松木二遊間を拔き松井を還し濱野も中前安打、八十川四球に續きしも樋口三振、但し二點を入れて俄然明大ラッキーセブンに二點を勝越す（鐵）（明大樋口に代つて右翼へ）

第八回（明大）布谷捕邪飛、濱野捕前ゴロ、河野中飛（鐵）（明大鬼塚投手、井野川捕手となる）永田、三山共に遊飛、本多二—一後ドロップを空振

第九回（明大）松井遊飛高投に生き井野川三壘打に安打に拔いて無死走者を一、二壘に置き明大又もや好機を迎へ松木一飛に井野川二壘に封殺されたが此の日の當りや濱野右中間に三壘打を放つて走者二人を歸し八十川に代つた鬼塚三直、ピンチヒッター中村（穰）一飛せしも明大更に二點を加ふ（鐵）（明大針持に代つて中村（穰）右翼へ）渡邊三振後田子に代つた才木中前安打に出で鈴木（英）中右間三壘打に才木生還、鈴木も後尾の二遊間安打に生還その差一點、俄然好試合と見えしも鐵團の遊飛に尾尻投、内山投飛して遂に入らず五對四にて明大勝つ、閉戰三時五十八分

（評）明大最後の攻擊に目覺しく井に松井の遊飛高投が物をいつて此の日の當りや濱野に無條件にホリ込んだ三壘打を打されて遂に二點をものし鐵團最後の攻めも及ばず明大は過時の逆襲に悠々一勝した

（評）明大は遂にラッキーセブンに點を入れ正攻法に出でて健棒を振ひ一點の難なく勝得一點を〔illegible〕ラッキーセブンに鬼塚、中尾に代つた鐵團一飛、内山三飛に終る

	打數	得點	安打	犧打	盜壘	三振	四球	失策	刺殺	補殺
明治（先）										
4 布谷	3 0 1 1 0 0 1 1 0 2									
6 濱野	5 1 1 0 1 0 0 1 1 1									
8 河野	2 0 0 1 0 0 0 2 1 0									
7 松井	5 2 1 0 0 0 0 1 0 1									
2 二木	3 1 1 0 1 1 2 1 0 4									
3 井野川	1 0 1 0 0 0 0 0 0 1									
3 泊畑	2 0 0 0 0 1 0 0 0 9									
5 松木	3 1 1 0 0 1 0 1 0 6									
1 八十川	5 0 3 0 0 1 0 3 0 0									
9 鬼塚	2 0 1 0 0 0 2 2 0 0									
中尾	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0									
樋口	1 0 0 0 0 0 1 0 2									
針持	0 0 0 0 0 0 2 1 0									
中村（穰）	1 0 0 0 0 1 0 0 0									
合計	34 5 10 2 2 5 9 13 12 7 2									

	打數	得點	安打	犧打	盜壘	三振	四球	失策	刺殺	補殺
鐵團										
6 永田	2 1 0 0 0 0 2 0 1 5									
5 三山	3 0 0 1 0 0 1 0 0 1									
8 本多	3 0 2 1 0 1 1 1 3 0									
1 渡邊	3 0 0 0 1 0 0 0 0 1									
7 田子	3 0 0 0 0 0 1 0 1									
PH 才木	1 1 1 0 0 0 0 0 0 0									
2 鈴木（英）	4 1 1 0 0 0 1 0 0 1 7									
4 後尾	4 0 1 0 0 0 0 0 0 4									
3 鈴木（不）	3 1 0 0 1 0 0 0 0 4									
3 淺岡	2 0 0 0 0 0 1 0 2									
9 内山	4 0 1 0 0 0 0 0 0 1									
合計	31 4 6 1 2 3 3 6 2 27 16									

新人チームの出場

作戰を變へた岡田監督

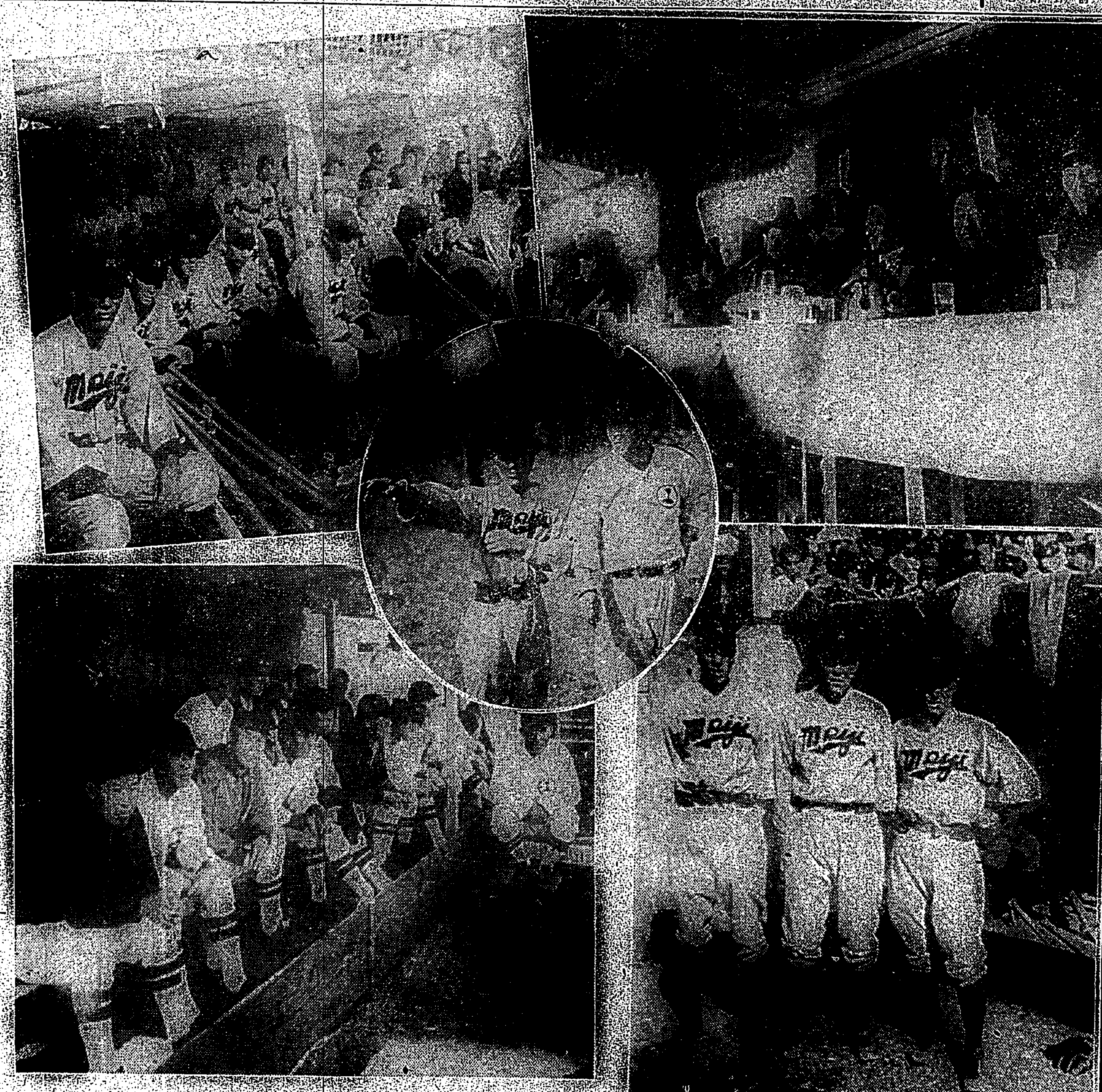
對鐵第一回戰の妙味

投手八十川、捕手二木、一壘泊畑、二壘布谷、三壘濱野、遊擊濱野、左翼松井、中堅河野、右翼中尾——之は恐らくは來るべき明大の發展を荷つて立つチームの骨組を窺ふに足る編成であつた、勿論之に中村穰、山脇、樋口其他新鋭ある若手元氣一杯の新人の起用を見て大膽明大の來るべき新チームを豫斷するに足る素材を對鐵第一回戰に表現して呉れたことは本島ファンにとつては興味津々たるものがあつた……と同時に2—0と鐵にリードされ新打松木を始め井野川、鬼塚を出用して攻守にその鋲を得て5—4鐵を一蹴したことは明大ベンチ岡田監督の素晴らしい戰術によることは勿論であるが新人チームに押しの一手の缺けたる憾みがあり之を松木、井野川、鬼塚の起用に依つた所何々鍵のある所であつた、角田前主將の出場はファンの期待してゐた所であつたかも知れない

明治對CB第一回戰

二日午後一時半試合開始

圓山球場に於て



型を示してくれた

天知、横澤の兩審判

餘裕綽々たる明大軍の陣容

〔illegible〕

その瞬間

〔illegible〕

つて此の日の當りや濱野に無條件にホリ込んだ直球を三壘打させ遂に二點をものし鐵團最後の攻めも及ばず明大は過時の逆襲に悠々一勝した

したぜ、何しろ二—〇で鐵にリードせられてたのだからね

と天照悲北子さ一緒にしたやうな顔だ、「ストラック」と天知球審の實作は簡潔に輕くスタンドにエフートな、ストライクとボールを示すヂエスチユアーに明確に〔illegible〕

氣持よく

スタンドからも〔illegible〕

泰然自若

もボールの投げられた方向によつて位置を換へカツキリと正確なチヤツチメントと型を示してゐた、2—0鐵リードせるとき明大軍のベンチをうかがへば岡田監督を囲んで赤木主將、角田、井野川、鬼塚の新選手連 泰然自若たるものだ

今少しの〔illegible〕かりと思はれた大飛球も中飛と終つて「失敗！失敗」

とタンクのやうな身體を小さくしてベンチに引揚げると「アレでいいんだ」と濟んだ陽氣だ、第七回濱野を二壘走者に置いて當日の殊勳いカーブを飛びつくやうにして右翼へ胸の透くやうな安打を放つた松井選手を迎へてベンチは「アレでいいのだ」天知球審が選手交替に際してマスクを脫いで實にハツキリとオフシアルスコアラーに交替選手名を通告する、記錄員に好評嘖々

大阪朝日記者二名

匪賊に慘殺さる

盤山方面の最前線にて

【大連一日發聯合】三十日營口から盤山方面に向け出發したまゝ行方不明となつた朝日新聞社油井義雄、伊藤義光兩氏は本月に至り南小房心附近で匪賊のため狙擊され伊藤氏は即死、油井氏は脚部に負傷を受けサイドカーと共に拉致された事が判明した

球場雜觀

◇良く晴れ

て今日この日を祝福するかの樣に日輪ひもす沖天に輝き明朗な陽が各々その流鉢された球技を發揮するには持つて來いの絕好日和である、その上常には一抹の冷氣をさへ帶びてゐた劍潭山おろしの南風も今日は京友の島嶼南のお正月を物語るかの如くいさゝかの濕氣を帶びて見物日和りである、午前十二時半から十時半開場と同時に内野スタンドにかなだれ込んだ屠蘇氣分はろ醉ひファンに取つて見込く見心地良い〔illegible〕

噂に花を

咲かせ時節を告げてゐアンは陸々と外野へ溢れ出て未だ見ぬ明大チームの噂つと共に濃なる驚嘆の色を見せる頃、定時三十分前滿富の如き拍手に迎へられてねずみ色のユニホームサツソウたる明大チーム入場十分遅れて鐵團も入場し兩軍の賑やかなシートノックに移れば待ちこがれたファンからは聲援の與發明大エール、拍手、歡聲の交響樂だ

× ×

カラリと晴れ渡つた昭和七年の元旦！野球ファンの神様は明日開校所謂所の「晝天、日日晴」に觸れぬ歡ばされて氣がかりなこと、流石天氣に好球家の元旦は滿悅！だ

× ×

ホテルの名刺交換會の一寸拔けてイヤ御目度ふ、君どうする、イヤ野球正月だ——中年越した人々の正月の樂みはカルタ遊びでも酒も酌む、紹局碧空に白球飛ぶ憂々の響き！スポーツのみが齎して與へる男性的痛快味だ

× ×

群がる蟻のやうに、白色の市バスが圓山を中心に頻りに集散する、その光景が臺北を呑んで圓山を吐く

屠蘇氣分の觀衆で滿員

圓山のスタンドから

昭和七年一月元日、待ちに待まれた明大チーム來征の第一日——昨年大阪日日は數日前け樣に曇空低くたれこめてゐた臺北地方の天候も朗かしきこの日には臺北測候所發表の晴天吉報以上に〔illegible〕

斯くて一時四十五分、昭和七年劈頭に於ける圓山球場のホームプレートを他の見事に通す本社河村社長の始球式の後天知球審の宣する朗らかなプレーボールに臺灣球史の榮ある一ページを飾るべき明鐵野球第一回戰はその幕を切つて落としたのである

太田總督も臨場し

賑やかな來賓席

明大應援團の活躍振り

メーンスタンドには太田總督を初めとして後藤、吉田、中川、加藤、三好、谷木、濱口、茂木、横山、荻本、吉田、小林の諸氏など熱心に見入つてる、七回表までホームチームたる鐵道が斷然優勢なるに之が同點となり勢の加はると共に應援も飛び出し氣勢を添へた、婦人連も姿を見せ野球氣分を醸し出してゐた

中には「流石、帝都大學野球リーグのピック、スリだけあるね」てるた

ラッキーセブンより〔illegible〕得點を打ちわに濟遂の球を浴せまくつてリードされ戰況を挽回したところで、後半に強い明大高聲を見せてゐる

などと喜ぶするファンもある、一方明大オールドボイズによつて組織された應援團は母校チーム快勝を共に作ぎに向つて高らかに賑を張つて明大エールを高唱し〔illegible〕一された明大スピリットの〔illegible〕を見せてファンに一段の感激を與へてゐた

純然白色の〔illegible〕中に孔雀のやうに渦を作つて叫ぶ人が雄々しく押し出されて來るスタンドを目ざす野球ファンの一心は〔illegible〕〔illegible〕り加藤四郎「オイどけ」と云ひ〔illegible〕一七回の表で鐵〔illegible〕明治同點となり一點のリードされるやスタンドが熱狂の音聲をたてゝ大きく響へる明大校友應援團が〔illegible〕「オイ、大ちやん」〔illegible〕の〔illegible〕ンドは俄かなスポーツ氣分で全く正月氣分は正月を忘れた様だ

本號外は本紙に再錄せず

野球戰畫報

【右上】臨場の太田總督と名士達【右下】（右から岡田監督、鬼塚、井野川兩選手）【左上】明大軍の陣營【左下】鐵團の陣營【圓內】明鐵兩軍主將